

# 赤井谷（山岳会企画山行）

【日程】 2024年11月9日（土）～2024年11月10日（日）

【エリア】 大峰山脈

【形態】 無積雪登山・テント泊

【メンバー】 K.S、S.D、K.S、T.N、K.O、S.K、M.T、M.M、T.M、I.T、Y.H、S.M

【報告】 S.D、K.S

《ルート／タイム》

11月9日

御所 PA（7：00）集合

本隊：花瀬（10:00）～赤第谷・幕営地（13:30）

サポート隊：太尾（12:00）～赤井谷・幕営地（13：30）

11月10日

幕営地(6:50)→9:10 深仙ノ宿 9:50→10:30 かくし水 10:40→古田の森(11:10)→太尾登山口(12:25)

→御所 PA 解散

《報告》

11月 9日（報告者：D）

花瀬より入山。当方、夏に催行された新歓登山を除けば初めての山岳会の多人数山行でありましたので開始前後は身構えておりましたが天候に恵まれた沢沿いの緩やかな道をのんびりと休憩しつつ歩いているうちに緊張も無くなりました。

14 時頃に幕営地に到着。焚き火のための枯れ木を集めたり、テントの設営、水汲みなど全員での共同作業は個人山行ではできない貴重な経験となりました。個人的感想ではありますが、特に共同装備としてエスパースのテントが複数並んでいるのは「山岳会」という感じがして気分が上がりました。

その後は鍋や焚き火で焼いたベーコン等を振る舞って頂き、どれも絶品でありました。日が傾き気温が下がってきた後は火を囲んで談義に花を咲かせ、山の諸先輩方の体験や知識等、貴重なお話を拝聴させて頂きました。その後、各々が眠気を感じテントに入っていく中 I さんのクライミングに関するお話に夢中になり気づけば 2 人だけ。明日に備えて 20 時頃就寝。

奈良山岳会以外では単独や 2 人での山行しかほとんど経験が無く、足並みを揃えて行動できるか等、不安も多くありましたが花瀬という中々入山できないルートも含め山岳会だからこそその素晴らしい体

験ができました。

重ねてにはなりますが参加された皆様、お疲れ様でした。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

## 11月10日（報告者：S）

4人用テントにて女性4人で就寝、出入口がファスナーではなかったので出入りの音に気付かず、近くで鹿が鳴くこともなく(多分)、静かでよく眠れた。

6時スタート予定、ゆっくり準備できるよう4時起床。テントの横でゆっくり朝食、身支度を整えテント撤収。ペグを数えながら私が7本回収し、女性4人でテントをたたむ。…ペグは何本？え、8本?! 周囲を探すが無い。再度テントを広げ、その周辺で徹底的に探すが無い。弁償するしかないと思腹をくくったところで「あった!」の声で安堵して、女性4人でテントを分担してザックに仕舞う。周囲の立派な木や、美しい流れに名残を惜しみ、忘れ物がないか点検して幕営地を離れる。

予定時間を過ぎ6:50頃、リーダーの後に続いてゆったりと行動開始。薄日が差して広やかな谷の紅葉が美しい。小さな渡渉を1~2回、地図でもわかる渡渉を1回。あとは沢を左に見ながら薄い踏み跡をたどって緩やかに高度を上げる。

やがて足元に背の低い笹が広がり、濃いガスも漂い始めて大峰らしい景色となる。靡かと思うような大岩を過ぎると空が広くなり、大峯奥駈道への合流も近いと思心躍る。

尾根から左に少しそれると青い小さな屋根が見える、深仙の避難小屋だ!ここか、ここに出るのか。

避難小屋で休憩。予定通り釈迦ヶ岳に登るか?自分はもう山頂は行かなくてもいいなあとリーダー。みな同じような雰囲気、ガスが濃くなり気温も下がってきたので山頂は目指さずに下山することになった。かくし水へと道を取るとトラバース右手に石碑があった。「伊富喜秀明師入定之地」とある。リーダーより断食修行されたかたの入定の地と説明を受ける。ここは信仰の山なのだ。

かくし水からの稜線では時雨交じりの風が冷たく足早に進む。登ってくる二人連れから少し下で熊を見たと聞く。注意しながらさらに進み、古田の森を過ぎると青空がのぞき始める。P1434の下で風を避けて最後の休憩。向かい側に見える山肌の紅葉が美しい。まもなく太尾登山口に到着下山。3台に分乗して戻り、御所南P「御所の郷」で軽食を取って解散。

行ってみたいと思っていた赤井谷、なかなかいけないところだったので、奈良山岳会に入ってよかったと思った。鹿の角をいただいた。思い出にキーホルダーに作ってみようかな♪



幕営地付近の立派な木



深仙宿の手前の岩、靡のような貫禄



深仙の避難小屋で休憩



太尾への下山はガスと時雨交じり